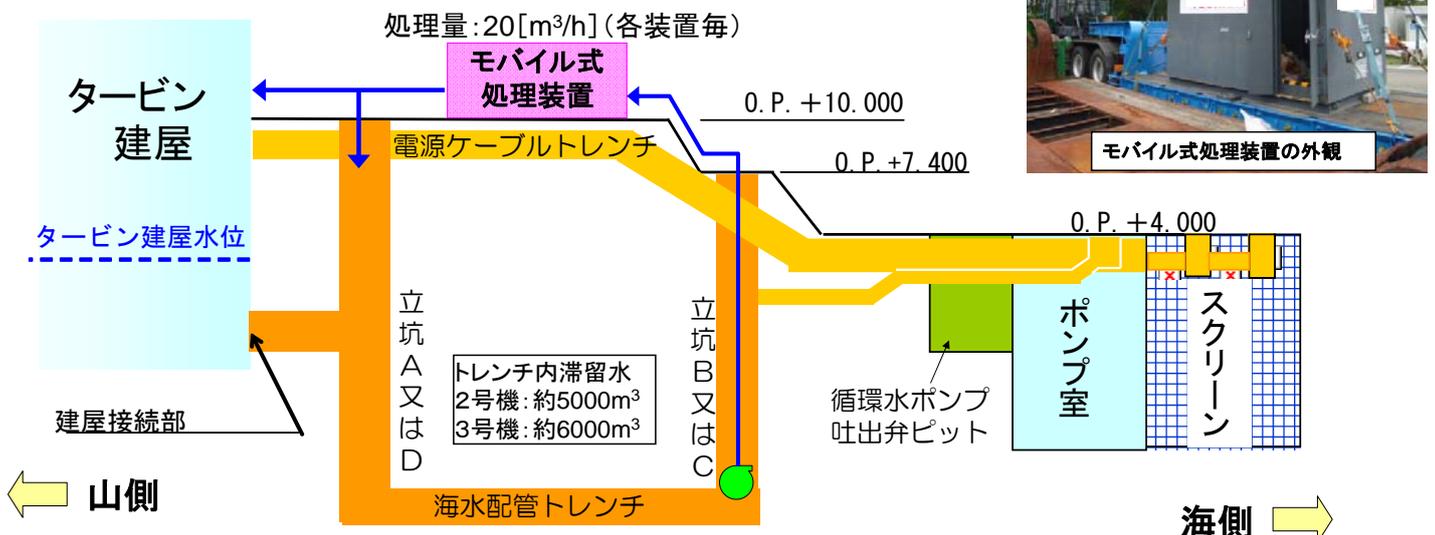


主トレンチ（海水配管トレンチ）内汚染水処理状況について

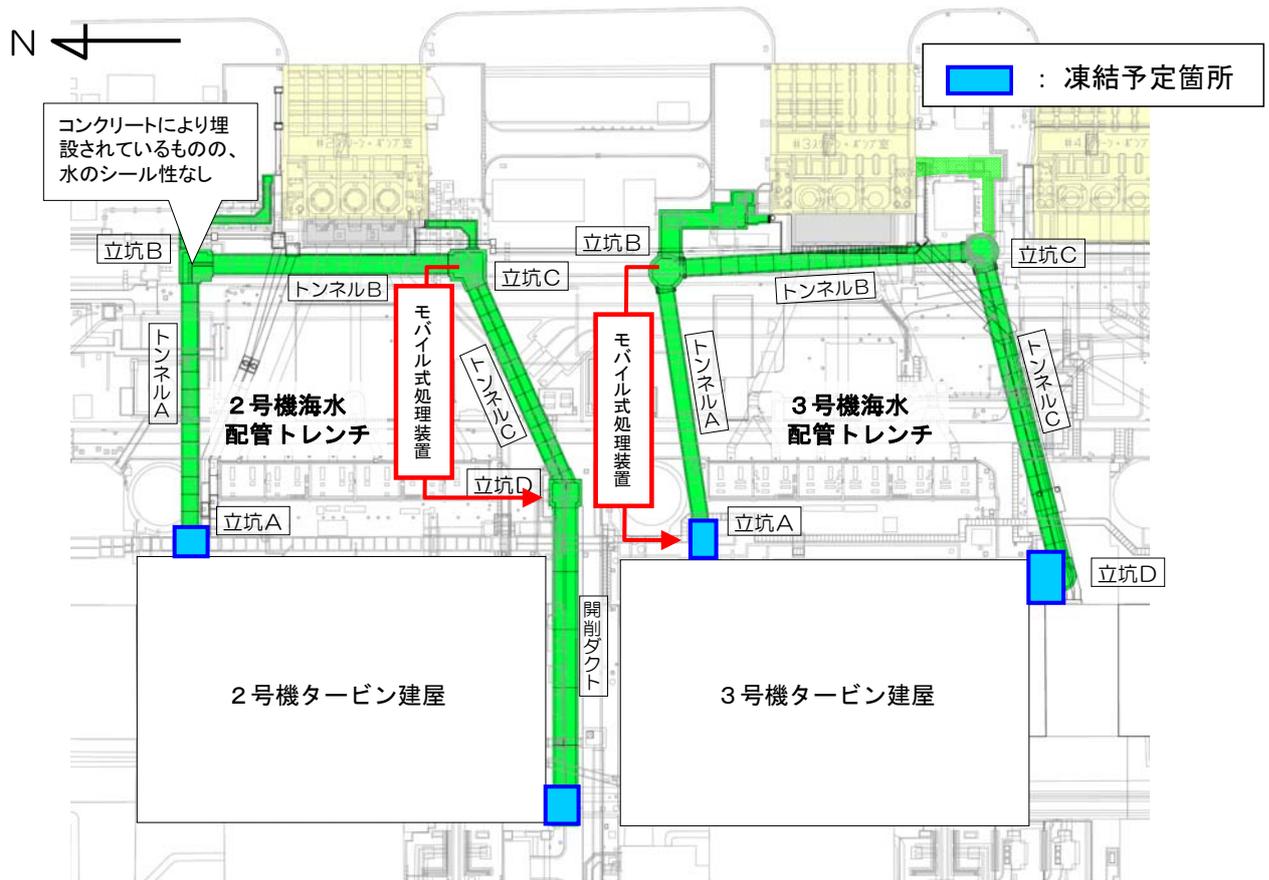
平成26年3月27日
東京電力株式会社

1. 主トレンチ（海水配管トレンチ）内汚染水の処理状況

- 2・3号機主トレンチ（海水配管トレンチ）の海側の立坑に水中ポンプを設置し、トレンチ滞留水を汲み上げ、モバイル式の処理装置の処理済水を山側の立坑等へ移送。
- モバイル式の処理装置（吸着塔ユニット・弁ユニット）は、各号機毎に一式設置。
- 2号機 H25.1 1.1 4より処理運転開始（現在通算約48,100m³の滞留水を処理）
- 3号機 H25.1 1.1 5より処理運転開始（現在通算約48,500m³の滞留水を処理）



海水配管トレンチ全体平面図



2. 主トレンチ(海水配管トレンチ)内汚染水の処理状況(1/2)

トレンチ水のサンプリングデータ

・サンプリングポイント：モバイル式処理装置吸着塔入口（トレンチ滞留水）、吸着塔出口

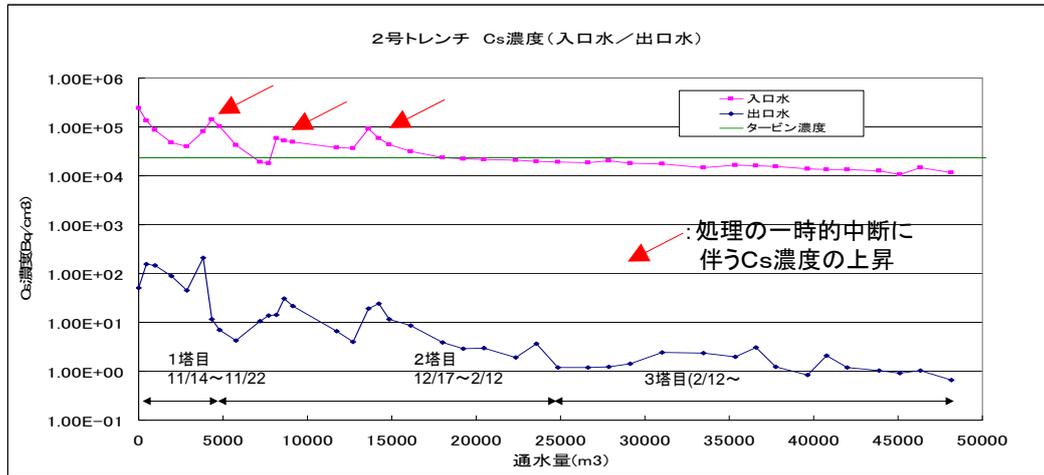
号機	2号機		3号機		
	吸着塔入口	吸着塔出口	吸着塔入口	吸着塔出口	
放射能濃度 (処理開始時)	日付	H25.11.14		H25.11.15	
	^{134}Cs (Bq/cm ³)	6.69×10^4	1.60×10^1	1.05×10^4	1.57×10^0
	^{137}Cs (Bq/cm ³)	1.74×10^5	3.54×10^1	2.28×10^4	3.89×10^0
放射能濃度 (現状)	日付	H26.3.24		H26.3.24	
	^{134}Cs (Bq/cm ³)	3.14×10^3	$< 1.57 \times 10^{-1}$	1.13×10^2	$< 1.21 \times 10^{-1}$
	^{137}Cs (Bq/cm ³)	8.41×10^3	4.98×10^{-1}	2.89×10^2	$< 1.63 \times 10^{-1}$

2, 3号機ともに処理が進められ、2号機についてはタービン建屋滞留水(^{134}Cs , ^{137}Cs の合計で約 $2 \sim 4 \times 10^4$ Bq/cm³)とほぼ同等レベルまで、3号機については充分下回る程度までトレンチ滞留水の放射能濃度の低下が確認されている。

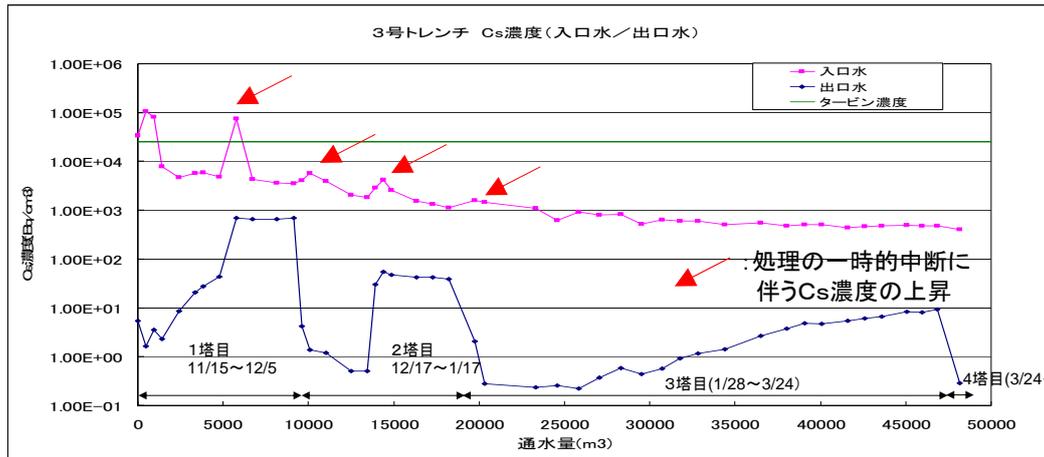
引き続き処理を継続するとともに、サンプリングを行い処理傾向を確認していく。

2. 主トレンチ(海水配管トレンチ)内汚染水の処理状況(2/2)

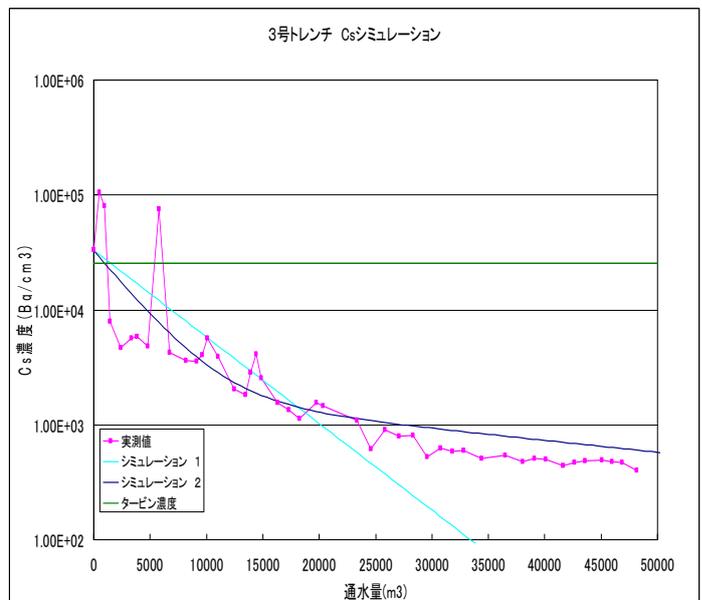
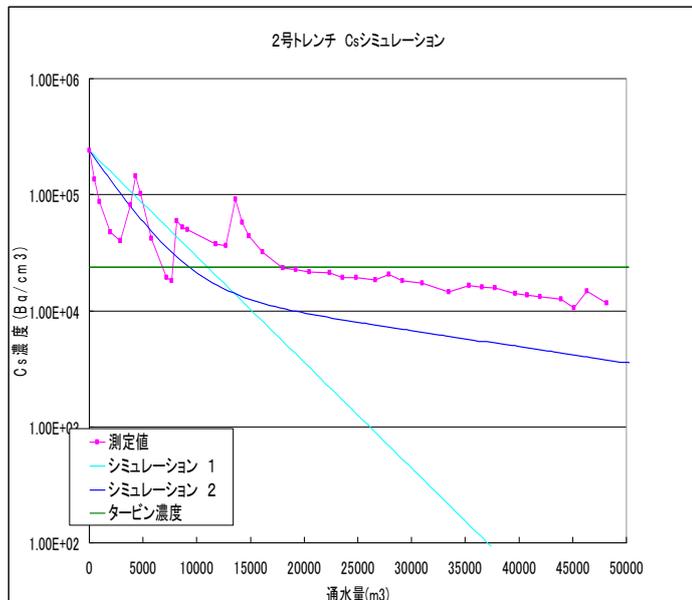
【2号機】



【3号機】



3. 処理状況評価結果



シミュレーション1: タービンからの流入なし、トレンチ内滞留水の流動性による影響を考えないケース
 シミュレーション2: 1のケースに、仮定としてトレンチ内の1/3を流動性が乏しい領域と想定し、
 1m³/hにて滞留水が混ざり合うことを想定

4. 処理状況の評価と今後の予定

【処理状況】

2号機、3号機ともに浄化開始以降、放射能濃度の低減が確認されている。

浄化を一時的に停止している状況における放射能濃度の再上昇が確認されており、トレンチ全体の滞留水の流動性から、浄化効率の低下は否定できない。

【今後の予定】

トレンチ内汚染水浄化の目的は、止水に先行して可能な限りリスクを低減するものであり、今後も、止水作業が開始されるまで継続的に浄化を進めるとともに、トレンチの止水工事準備を進める。

なお、浄化については、現在セシウムを浄化目標に浄化を進めているが、今後ストロンチウムについても浄化を計画していく。